紋所は秀吉縁の千成瓢箪 擬宝珠には純金 純銀の千鳥が

HIGASHIYAMA

東山

灘地域の北東部に位置する東山は、松原八幡神社の東にある大日山の麓にあたることからその名がついた。以前は町中に田園風景が広がっていたが、近年は商業施設の進出と宅地化で1600戸までに発展を遂げている。

灘のけんか祭りの宵宮は、東山屋台が宮入りの先陣を切るため、どこの町よりも早めの出発となる。

本宮の正午から始まるお旅山への神官渡御の際、行列の先頭に立って進む人々の中で白装束の神主姿の一団もこの地域の人たちである。松原八幡神社では、明治の初めころまでの約300年間、神主がいないという状態が続いていた。天正年間、三木城の別所氏に社殿を焼き討ちされたうえ、対陣する秀吉には社領を減らされ、神社内での生活が維持できなくなったからである。しかし、社家の多くは東山に居住し、農作業のかたわら、祭礼には役目を務めてきた。松原八幡神社から離れた場所に位置しているが、これが「東山が宮元」という謂われであり、町民の誇りなのである。

屋台は、平成25年に新調。素材は最高の木曽檜。彫り物は名匠前田貴史師の作で、露盤は正面に悪魔払いの「鍾馗」。神話や伝説に登場する「神功皇后」「山幸彦」「武内宿禰」は如意宝珠を持った玉づくしのめでたい図柄で、狭間は「素戔嗚尊八岐大蛇退治」と、灘のけんか祭り同様に赤松氏ゆかりである三ツ山大祭の3基の置山に施される退治物の「仁田四郎猪退治」「源頼光鬼退治」「俵藤太大百足退治」であり、狭間彩色には一部木地彩色という木肌を生かした技法を取り入れている。

屋台前後の昇金具には長寿と繁栄の鶴や亀、側面の昇金具には勇壮な鷹や獅子をあしらい、見る方向で異なる昇金具を装飾している。

東山屋台の特徴と言えば、屋根に輝く「千成瓢箪（せんなりびょうたん）」の紋。もともとは「菊紋」を使っていたが、明治初期、皇室の紋章である菊紋の乱用禁止令が出されたため、当時の沖中吉四郎区長の発案で、当地にゆかりのある太閤秀吉の馬印「千成瓢箪」を「菊紋」にもよく似た12の瓢箪に彫刻、金箔を施して、東山独自のシンボルとした。

本宮でしか披露しない東山伝統の擬宝珠は、江戸時代に大阪の天満宮から破格値で買い入れた逸品を参考につくられ、独特の伏鉢に純金・純銀の千鳥が6羽ずつ取り付けられている。

祭典役員

大西総代

総代	大西 雅之
祭典委員長	白井 成昭
副総代・祭典会計	八木 泰知
祭典副委員長	寺尾 宏行
交渉委員長	福田 周一
交渉副委員長	上村 明良
広報委員長	幡中 義嗣
警備委員長	毛利 隆之
救護委員長	神先 敬三
祭典取締委員長	濵田 準
祭典取締副委員長	岸本 壮一郎